

公益社団法人青少年健康センター 2021年度事業報告

1. 法人の基本情報

(1) 法人の概要

① 法人の目的

公益社団法人青少年健康センターは「青少年問題についての調査研究及び知識の普及啓発を行うとともに、精神的不適応等青少年の行動上の問題に対し適切な相談指導を実施し、もって青少年の健全育成と公共の福祉増進に寄与すること」を目的としております。(定款第1章 第3条)

② 業務内容

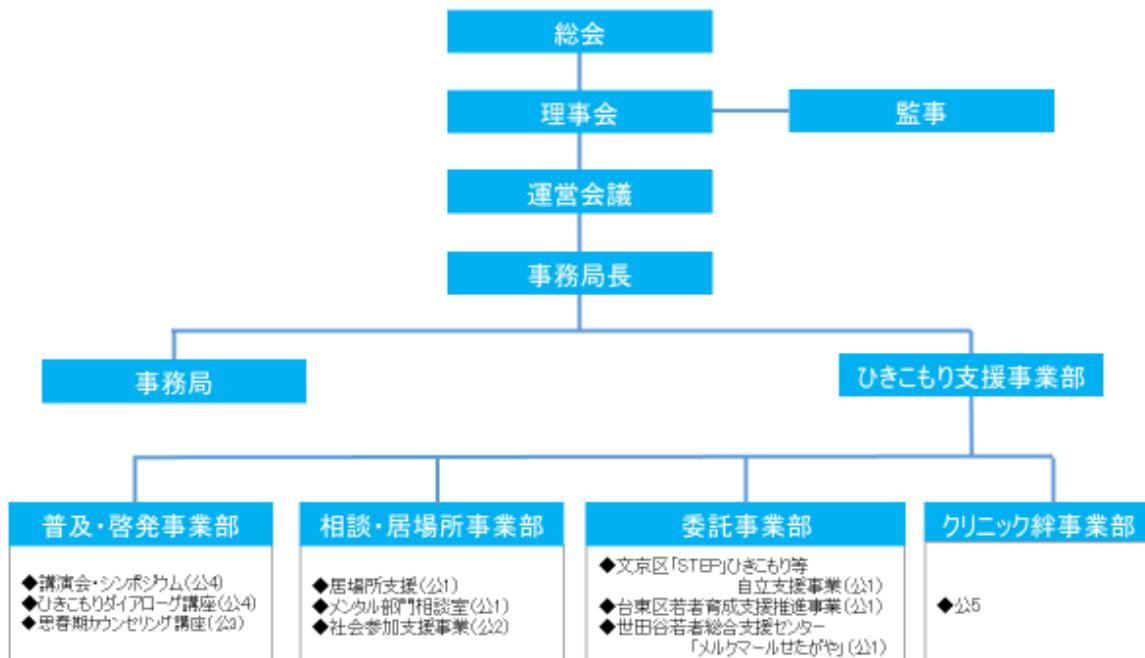
当法人は、定款第1章 第3条の目的を達成するために以下の業務を行います。

- i) ひきこもり等生きづらさを抱える若者への相談・居場所支援事業(公1、公2)
- ii) ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業
(公3、公4)

iii) 若者の自殺予防を図る無料の電話相談「クリニック紹」事業(公5)

③ 組織図(2022/03/31)

公益社団法人青少年健康センター組織図



(2) 役員の状況

作成日:2021年7月1日

公益社団法人 青少年健康センター

2021年度 役員等名簿

役職名	氏名	職業等	備考
会長	斎藤 環	筑波大学教授	非常勤(重任)
副会長	井利由利	公益社団法人青少年健康センター 茗荷谷クラブチーフスタッフ	常勤(重任)
理事	藤堂宗継	医療法人社団雄心会山崎病院	非常勤(重任)
	倉本英彦	医療法人社団北の丸会 理事長	非常勤(重任)
	岩佐壽夫	家庭ケースワーク研究所 所長	非常勤(重任)
	笛原信一朗	筑波大学 准教授	非常勤(重任)
	芳賀雅子	働けない子どものお金を考える会	非常勤(重任)
	伊藤亜矢子	名古屋市立大学 教授	非常勤(重任)
	時盛昌幸	公益社団法人青少年健康センター 事務局長	常勤(重任)
監事	菊池 章	医療法人白翔会浦和神経サナトリウム 院長	非常勤(重任)
	佐藤 容子	横浜あかり法律事務所	非常勤(新任)
参与	中島聰美	武藏野大学 教授	
名誉会長	斎藤友紀雄	公益社団法人青少年健康センター 前会長	
名誉顧問	関川俊男	公益社団法人青少年健康センター 前副会長	

2. 事業の説明

2021年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)の事業報告を下記の通りご報告いたします。

(1) 法人事業

① 青少年健康センター 理事会開催

i) 第1回理事会開催

2021年6月5日(土)17時00分より青少年健康センター三軒町ビル205号室にて2021年度第1回理事会が開催され、当日はオンライン参加も併行して行われました。総理事12名のうち理事10名、監事1名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 2021年度定時総会開催について」、「第2号議案 2021年度決算・事業報告について」、「第3号議案 助成金受託の承認について」、「第4号議案 理事及び監事並びに参与の任期満了に伴う改選に関する件について」が挙げられ、それぞれの書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。報告事項として「会長及び副会長の職務執行報告」が行われました。

ii) 第2回理事会開催

2022年3月12日(土)17時00分より青少年健康センター三軒町ビル205号室にて2022年度第2回理事会が開催され、当日はオンライン参加も併行して行われました。総理事9名のうち理事6名、監事1名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 2022年度事業計画・収支予算について」、「第2号議案 新規正会員の承認について」が挙げられ、書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。報告事項として「過去の決算書類の修正について」、「会長及び副会長の職務執行報告」が行われました。

iii) 臨時理事会開催

2021年6月23日(土)午後5時45分より青少年健康センター三軒町ビル203号室にて臨時理事会が開催され、当日はオンライン参加も併行して行われました。総理事9名のうち理事7名、監事1名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

議題として「第1号議案 会長・副会長の選定について」、「第2号議案 新規正会員の承認について」が議論され、会長に斎藤環、副会長に井利由利が選任され、並行して斎藤環が代表理事、井利由利が業務執行理事として選任されました。

② 青少年健康センター第7回 定時総会開催

2021年6月23日(水)17時00分より 青少年健康センター三軒町ビル205号室にて定時総会を開催され、当日はオンライン参加も併行して行われました。総社員数42名のうち、出席社員26名(委任状出席16名)により、過半数が認められたため、総会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 2021年度事業報告及び決算の承認に関する件」、「第2号議案 理事及び監事並びに参与の任期満了に伴う改選、名誉会長および名誉顧問選任に関する件」が挙げられ書類を提示し、詳細な説明したところ、満場異議なく承認可決されました。また報告事項として「2022年度事業計画および収支予算に関する件」について報告が行われました。

③ 新型コロナウイルス感染症対策

2021年度においてはWithコロナを意識しながら事業展開を行ってまいりました。事業の実施については、極力中止の判断はせず、現状の中でどのように実施するかを検討しながら活動を行ってまいりました。事業参加者にも体調確認・感染症対策を徹底しました。職員については、感染症対策を告知しながら、緊急事態宣言中には在宅ワークへの切り替え、事業が中止されることになっても雇用の保障を連絡し、体調不良時についても報告しやすい環境作り・有給での休暇保証、また体調に関わらず不安のある方、接触歴のあるかたにも保証を実施しました。その結果、センター内での集団感染の報告はなく、年間を通して大きな予定の変更が無く運営が行われました。

④ 助成金

2021年度助成金実績として以下が採択されました。

➢公益財団法人JKA

- ・引きこもり・不登校に対する支援活動

➢厚生労働省 雇用安定助成金

- ・「新型コロナウイルス感染症の影響により事業活動の一時的な縮小を余儀なくされた事業主が、在籍型出向により労働者の雇用を維持する場合、出向元と出向先の双方の事業主に対して、その出向に要した賃金や経費の一部を助成します。」

(2) 公益事業

2021年度の公益事業における全体の利用実績が12,695件(月平均1057.9件)にのぼりました。2020年度が11,433件(月平均952.8件)であり、公益事業全体で比較すると、利用件数は増加いたしました(2020年度比111.0%)。2021年度においても新型コロナウイルス感染症における影響から、オンライン等も活用しながらの事業を進めてまいりました。詳細は以下に記載いたします。

① ひきこもり・不登校に対する自立支援

i) 心理相談(茗荷谷クラブメンタル部門相談,※公1に該当)

総延相談件数5,497件(茗荷谷相談*:1,388件、世田谷相談:3,857件、電話:252件)となりました。2020年度が4,831件であり、心理相談事業の利用数は増加となりました(2020年度比113.8%)。事業ごとに比較したところ、全ての事業において相談件数は増加しております。(茗荷谷相談2020年1,327件 2020年度比104.6% 電話対応等 2020年133件 2020年度比189.5% 世田谷相談 2020年3,198件 2020年度比120.6%)。昨年度において葛飾の委託事業が終了となりました(2020年173件)が、相談事業としては充実していたと思われます。基本、個別での対応や遠隔の対応となるため、現在の社会情勢の影響を受けにくかったものと考えられ、ご利用される方々のニーズも高かったものと思われます。

なお、2021年度3月より千代田区の委託事業が開始し、相談業務を行いました。

2016年度より受託した「国士館高等学校および中学校の生徒カウンセリング業務に関する業務委託」では、年間54日訪問し国士館学校内の相談室を運営し相談業務を行いました。

2021年度はオンライン相談の導入等も検討が活発になりましたが、デジタルデバイドの問題・家庭での相談のハードルの課題・オンライン技術の未発達による代替不可能性といった課題が実践の中で浮かび上がり、オンラインの選択肢を残しながらも対面での実践を継続してまいりました。DX化の加速が世の中で進む中、取り残される大勢の当事者を鑑みて対面式の相談を継続した年となりました。

*文京区・台東区・千代田区委託事業も含む

ii) 居場所事業(茗荷谷クラブ,※公1に該当)

茗荷谷クラブおよび世田谷事業における居場所運営においては、4,239件(茗荷谷居場所:2,493件*、世田谷居場所:1,746件)となりました。2020年度実績は4,113件であり(2020年度比103.1%)微増となりました。茗荷谷クラブの居場所活動では、昨年と比較し増加となり(茗荷谷2020年度2,212件、2020年度比112.7%)、世田谷居場所では減少となりました(2020年度1,901件、2020年度比91.8%)。

居場所活動の参加者状況としてはコロナ禍以前と比較すると新規の方の問い合わせが減少傾向にあるようです。従来から居場所活動に参加している方々への抵抗感は軽減させられているようですが、居場所活動を卒業される方に比べて新規で参加される方が少なくなっています。

ます。コロナ禍ということもあり、集団活動より個別での関わりの方が安心して参加しやすいからかもしれません。年間を通じてご利用者様にも感染症対策を実施しており、イベント活動等が制限されていることも影響していると思われます。

オンライン活動に関して、i)心理相談と同様の課題が見受けられました。コロナ禍の陰で若者の自殺が増加する中、緊急事態宣言中でも対面式の活動を実施し、場の維持をこころがけ、自殺につながる当事者の孤立を防ぐように努めて参りました。

*文京区、台東区委託事業も含む

iii)社会参加支援事業(※公 2 に該当)

2021 年度の総件数は 1,439 件となり(2020 年度 950 件、2020 年度比 151.5%)、2020 年度と比較すると増加となります。2020 年度は緊急事態宣言の影響もあり、従来と比べるとまだまだ回復途上と言えます。それぞれの社会参加の場が以前ほど多くなく、また交流の手段も減少していることが考えられます。ボランティア体験、職場体験、ジョブトレーニング等の職場を提供し、参加いただいたご利用者様の総延数は 1,211 件でした(2020 年度 764 件 2020 年度比 158.5%)。また社会参加への準備を実施する「社会参加準備グループ」には延利用率数 78 件(2020 年度 70 件 2020 年度比 111.4%)でした。クラブ以外の外部交流のきっかけを提供する「農業活動」「サッカークラブ活動」には延 150 件(2020 年度 116 件 2020 年度比 129.3%)となりました。就労関連については協力企業様がイベント事業を担っており、様々なイベントが企画されなかった影響を受け、就労の場の提供が以前と比べ減少しております。また地域のお祭り等の参加やサッカークラブ活動なども、開催の機会が失われております。コロナ禍において、経済活動の縮小・外出自粛の情勢があり、本事業は現状維持を目標に継続して参りました。その一方で、コロナ状況下でも生き延びれるよう、当事者向けに仕事を創出する、メディアリテラシーの向上の取り組み等を実践して参りました。

② ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業

i)思春期カウンセリング講座(※公 3 に該当)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、思春期カウンセリング講座の開催を中止いたしました。

ii)「ひきこもりダイアローグ」講座(※公 4 に該当)

会長である斎藤環氏を中心に原則月に一回行われております。2021 年度は計 11 回開催し、545 名の方のご参加がありました。2020 年度では 10 回開催、年間 530 名であり微増となりました(2020 年度比 102.8%)が、1 回あたりの平均で比較すると、2021 年度が 49.5 名、2020 年度が 53 名となり微減となります。2021 年度も主にオンラインを中心に実施して参りましたが、傾向として会場で実施した方が、参加者が多くなっております。参加者にはオンライン開催に移行できるようオンラインツールの使い方などを配布して参りましたが、もともと会場にご参加いただいた方には

オンライン参加へのハードルが高い、会場と比べ満足度が低いことが影響したと思われます。逆にオンラインを活用している方々が会場に足運ぶという傾向はあまり見られず、オンラインに抵抗感が無い方々には満足度は保てているものと思われます。

講座名		会場・開催方法	日付
AM	PM		
理論編	対話ワーク	アカデミー茗谷、Zoom	4月17日
理論編	対話ワーク	Zoom	5月15日
文京区	対話ワーク	Youtube Live配信、Zoom	6月19日
理論編	対話ワーク	Zoom	7月10日
理論編	対話ワーク	Zoom	8月21日
理論編	対話ワーク	Zoom	10月16日
理論編	対話ワーク	Zoom	11月13日
理論編	対話ワーク	連合会館、Zoom	12月11日
理論編	対話ワーク	連合会館、Zoom	1月15日
理論編	対話ワーク	Zoom	2月19日
理論編	世田谷区	Zoom	3月12日

iii) 講演会・シンポジウム(※公4に該当)

2020年度に開催した講演会は以下の通りです。

講座名	開催方法	講師名	日付
ひきこもり家族のライフプラン	Zoom	菅原直子氏 (ファイナンシャルプランナー)	9月13日
文京区 講演会 ひきこもり家族のライフプラン	文京区民センター 3A 会議室	畠中 雅子氏 (ファイナンシャルプランナー)	10月3日
文京区 講演会 なぜひきこもりは長期化するのか? ～家族のできることを考える～	Youtube Live配信	白石 弘己氏 (埼玉県済生会 なでしこメンタルクリニック院長)	2月23日
台東区 講演会 当事者から学び考える ひきこもり等生き難さを抱えたわが子がいる家族のココロの快復術	Zoom	大橋 史信氏 (ひきこもりサポーター)	5月30日
台東区 講演会 ひきこもった方々が働くことを えらぶとき	台東区役所 10階会議室	茗荷谷クラブ あだち若者サポートステーション しんじゅく若者サポートステーション いたばし若者サポートステーション	11月6日
台東区 講演会 ひきこもりの明るい未来のために ～クリニックでの見守り支援と人生設計案内～	Zoom	伊波真理雄氏 (雷門メンタルクリニック院長)	3月13日

2021 年度では計 6 講座を開催し、計 238 名の方にご来場いただきました。2020 年度では計 6 講座 157 名 (2020 年度比 151.6%) であり増加となりました。2021 年度では 2020 年度に続きシンポジウムの開催を中止し、助成事業として計画していたライフプランおよび委託事業に関する講演会のみ実施いたしました。以前よりも幅広い内容にて実施しているため、各講演会において例年より増加傾向が伺えます。

③ 電話相談紓(※公 5 に該当)

2021 年度で 10 年目を経過したクリニック紓の総相談件数は 737 件となりました。昨年度が 852 件であり、相談件数は減少となりました (2020 年度比 86.5%)。減少の要因として、2020 年度から新型コロナウイルス感染症対策として時短勤務を導入し、年間を通して通常 18 時まで受電しているところを 17 時に変更しました。緊急事態宣言を受けた際には転送電話で在宅での相談対応のみ行いました。在宅での相談は、その対応が可能な相談員が限られており、担当者と検討した結果、週 3 日で相談対応をしてまいりました。以前よりも短い時間の対応のため、以前ほど相談希望者に繋がりにくくなっているのかもしれません。しかし、これらの経験から年間を通じて事業を継続することができ、ご利用者様への相談の場を提供しつづけることができたことは非常に肯定的なことと思われます。

以上、2021 年度事業報告をさせていただきました。2019 年度末より新型コロナ感染症の影響により実施できなかった事業もあり、上記の通り各事業において企画の中止等ございましたが、参加状況としては全体的に上向きとなっております。しかしこロナ禍以前の状況と比べるとまだまだ回復途上といえます (2019 年度 全体件数 17,163 件)。特にともども集団で行うような活動や大人数が集まるようなものに対しては、オンライン等の代用が難しいものが多く、またご利用者様にとつてもいくらか抵抗感を持たれることが少なくありません。改めて事業内容の改善や広報活動等を検討する余地も十分にあるかと思われます。今後とも新たな生活様式に適応しながら、事業を発展させ、より安定した各公益事業の実施、より社会に求められる事業運営を行ってまいります。職員全体で力を合わせて社業に注力する所存です。どうぞなお一層のご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

以上